

平成 30 年度第 1 回出島処分場事業連絡調整協議会の概要

1 日時及び会場

- 平成 30 年 7 月 24 日（水）14：00 ～ 15：30
- 出島廃棄物処分場管理事務所会議室（広島市南区出島四丁目）

2 出席者

- 委員 16 名出席（1 名欠席）

3 議事要旨

（1）協議会の進行

- 平成 29 年度第 4 回協議会の議事概要の確認
- 廃棄物の受入実績等について
- 出島処分場の埋立量確保と今後の公共関与処分場のあり方について
- 処分場の維持管理状況等について
- 周辺環境の調査結果について
- 地域振興策について

（2）発言要旨

【平成 29 年度第 4 回協議会の議事概要の確認】

（意見なし）

【廃棄物の受入実績等について】

- ・ これから災害廃棄物が出島の方にも来ると思うが、メッセ・コンベンション用地の仮置き場の活用はどうなっているのか。今もザウルス公園（出島東公園）に廃棄物が山積みになっており、撤去を早くお願いしたい。
→ メッセ・コンベンション用地については、その用地に仮置場を設けることを決定したところだが、いつから、どれくらい搬入するかについては、現時点では不明である。また、出島東公園で仮置きしている土砂・がれきについては、早くに撤去すると聞いているが、現在、道路啓開に伴う土砂と民地に入った土砂・がれきを整理しているところであり、いつまでに撤去するかは現時点で不明である。
- ・ 広島市内で発生した土砂・がれきは広島市で仮置きするということが、他の市町から広島市に仮置きへの依頼があった場合、どうするのか。
→ 発災現場で発生した土砂・がれきについて、仮置場所を設けるのは各自自治体が行っている。廃棄物が混合した土砂の分別作業を各自自治体で実施するか、または 1 箇所ですべて実施するかについては検討中である。
- ・ 出島に土砂や廃棄物を持ってくる場合は、できるだけトラックではなく、船による海上搬入をお願いしたい。
→ 発生量の多い土砂については、海上搬入をしたいと考えている。廃棄物については、海から搬入する施設・体制が整っていないため、陸上搬入とせざるを得ない。

【出島処分場の埋立量確保と今後の公共関与処分場のあり方について】

- ・ 出島処分場は当初海上搬入による廃棄物受入を検討していたが、当時は五日市の積出施設設置側への説明が不足しており、五日市側からの反対が強かった。今回の海上搬入施設整備にあたって、廃棄物積出側から反対を受けることは無いか。
 - 廃棄物の積出が既に実施されている船積み場所で行うので、積出側において、今回の海上搬入施設整備に対する特段の反対は無いと考えている。
- ・ 海上搬入施設を整備して廃棄物を受け入れるとして、平成36年5月末にどのような状態になっているのか。
 - 海上搬入開始時点の年間13万 m^3 を基に単純に試算を出すと、18年かかることとなり、約束である10年間に届いていない。海上搬入を開始するとしても、年間13万 m^3 を維持するのではなく、更に受入量が増加するよう、より一層の努力をすることとしたい。
- ・ 5年に一度実施している県内の排出量調査を、来年度実施するのであれば、現在出している年間13万 m^3 という数字が確かな数字であるかどうかを十分押さえてもらい、今後の計画量を出してもらいたい。
 - また資料等を調整させていただきたい。
- ・ 今回の受入確保策により、県内の処分場の延命ができたとしても、いずれは次期公共関与処分場をどうするのか考えないといけない時期が必ず来る。次の受入先が決まらなると、出島処分場がいつまでも終わらないのではないかという思いもあるが、次期処分場について検討しているのか。この処分場の経緯を最初から知っている者からすれば、ここまで莫大なお金をかけて、処分場作ってもらった気持ちも無かった。今後、これだけのお金をかけて作ったのだから、ずっと残しておけばいいのではないと言われるのは大変悔しい思いがするし、だまされたような思いもある。
 - 県内の産業廃棄物実態調査の中でも埋立処分量自体が激減しているという結果が出ており、現時点では、次期公共関与処分場の目途は立っていないが、出島処分場での埋立と並行しながら、公共関与処分場の将来的な必要性について慎重に検討していかなければならないと考えている。
- ・ 今回設置する係船施設等はいくらお金がかかるのか。
 - 概算で14、15億円と考えている。
- ・ 今の状況では、10年というのは大変難しい状況になっているが、10年で残りの量を一杯にすると考えているのか。
 - 約束である10年という期間を第一に考えており、廃棄物だけでは集めることができない場合には、それに代わる土砂なども含めて埋めることで検討・協議するという基本協定の追加確認書に則って取り組んでいく。
- ・ 10年で埋めるという目標にどうしても到達しないということになった場合、民間であれば、計画の変更を行うと思うが、考え方を考えるという決断の時期ではないのか。
 - 現時点では不確定な要素が多いので、まずは県内の廃棄物を出島処分場に集めるということと海上からも含めた受入体制を構築するという事に組み合わせていただきたい。
- ・ (会長) 今回の受入確保策について、本説明で御理解いただいたと考えさ

せていただき、施設整備に関する設計や工事の実施に移らせていただいてもよろしいか。

→ (異議なし)

【処分場の維持管理状況等について】

- ・ 処理前の余水でダイオキシン類の数値が出ており、処理後の余水でもダイオキシン類の数値が出ているが、何か環境的に原因があったのか。

→ 環境的な原因は無い。一般環境中にもダイオキシン類が全く存在しないということは無く、今回の数値は過去の実績の範囲内である。

【周辺環境の調査結果等について】

(意見なし)

【地域振興策について】

(意見なし)

※ 担当事務局

広島県環境県民局産業廃棄物対策課

TEL : 082-513-2964 (ダイヤルイン)